

「地域中核企業活性化ファンド」への出資について

株式会社みずほ銀行（頭取：林 信秀）は、本日設立された「地域中核企業活性化ファンド」（名称：地域中核企業活性化投資事業有限責任組合、以下「本ファンド」）に15億円の出資を行いました。

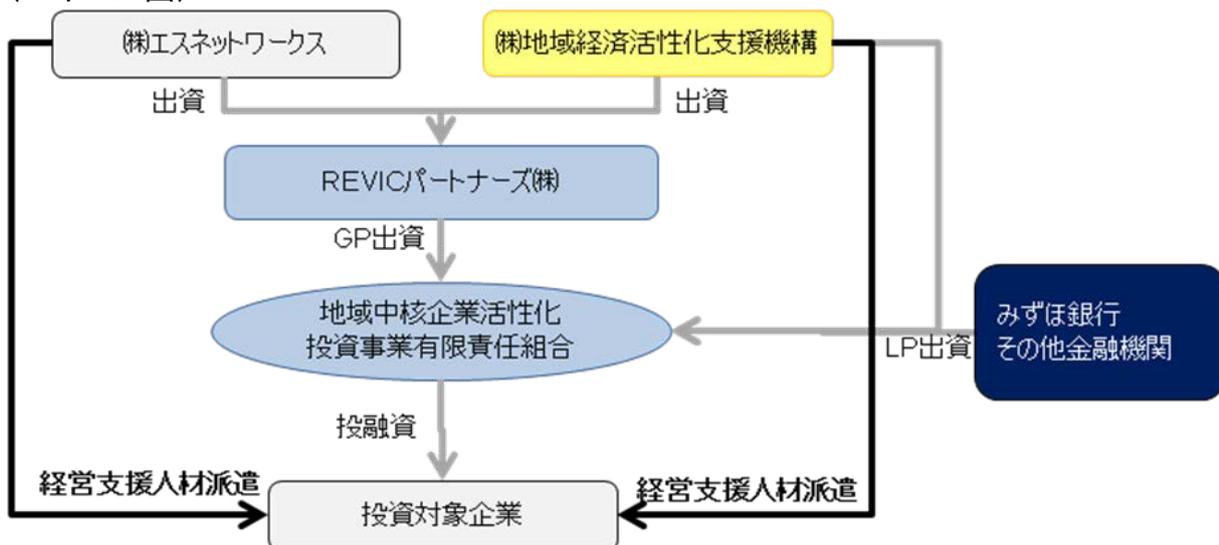
本ファンドは、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成のために、地域の核となる企業の早期経営改善等を資金と人材の両面から支援することを目的とするファンドで、総額は300.5億円を予定しています。投資対象は、業績改善・新事業進出・事業転換・新工場建設・M&A等による事業構造改革を行う意欲、または成長意欲を有する国内中堅企業を想定しており、資金とあわせて経営支援人材を派遣することで地域中核企業の業績改善に貢献することを目指しています。ファンドを通じた地域中核企業の活性化に向けた取り組みは、『日本再興戦略』改訂2014－未来への挑戦－に盛り込まれている施策の1つです。

なお、本ファンドの運営は、株式会社地域経済活性化支援機構と株式会社エスネットワークスが共同で設立した合弁会社「REVICパートナーズ株式会社」が行います。

〈みずほ〉は、日本の潜在成長率の底上げを目指すイノベーションの推進が、地域における企業の成長・日本経済の発展に寄与するとの認識に基づき、「地方創生」に向けたさまざまな取り組みを進めています。

本ファンドへの出資もこうした取り組みの一環であり、地域中核企業に対するリスクマネー供給や成長支援を行うことにより、地域経済の発展に貢献していきます。

（スキーム図）



以上